

## ◆概況

○日銀が4月2日に発表した短観によれば、製造業の景況感は横ばいであり、景気の足踏み状態から抜け出していないことを示している。歴史的な円高が一服など好材料があるが、原油価格の高騰、電力不足、中国経済の減速など、内外の懸念材料が影響しているとみられる。

○また、生活意識に関するアンケート調査の結果では、個人の景況感を示す判断指数は、先行きについて悪化したとしている。現在の暮らし向きについては「ゆとりがなくなってきた」との回答が増加している。やはり、きものは時間的な余裕と心のゆとりがないと着られないようだ。

○和装市場が一段と縮小している。震災の影響もさることながら、着物離れはますます進んでおり、長いスパンの中で和装需要のパイは減少し続け、未だ底の見えない状況である。やはり前が売れていないので、各流通段階でできるだけロスをすくなくして、在庫を持たない、余分な物を買わないといった状況はどのポジションでも同じである。

売れない理由は、やはり冠婚葬祭の減少であり、普段着が増えて低価格化が進んでいる。売り先の縮小は結果として全体的に機場を減らす状況となっている。

○こうした負の連鎖から抜け出すために、新しい取組として、数社の丹後機業の白生地を常設展示することで、目新しい白生地の確保と生産現場の顔が見える取組が注目された。この動きは、しっかりとした機場を確保したい思いと、中国からの表地の輸入量の減少が影響しているようだ。

中国の現状は、より利益率の高い業種へと移行する過渡期であり、機場はベトナムへと移行している。

## ◆流通・販売

○大手百貨店の集客が悪い。外商の力が無くなってきているようだ。理由は、売る側の世代交代の中で、優良顧客の引き継ぎができていないところに要因があるとしている。また、東京の富裕層の色合い（新しいIT企業等）が変わり把握できにくくなったとの声が聞かれた。

○1月の催事では高額品の売上げが伸びた。富裕層は震災や不況の影響は無いようだ。高額品は伸びる要素があると見ている。

しかし、高額品でも現品や在庫を持たないカタログ販売へと移行し、リスク回避の動きはさらに進んでいる。カタログには全国统一の希望小売価格を提示し、ネットを活用した販売戦略へと変わっている。

## ◆生産・商品

○値頃の振り袖用素材は、商品の売値が決められていることから海外生産の生地で充分であり、染めはインクジェットとなっている。ものづくりのスピード化と低価格化を図るためインクジェット染色に関しては、ここ数年の中で2倍以上の増産となっている。染め屋の職人不足から、インクジェットの得意な細かい柄付けなど、その特性を把握して使い分けて展開することで、今後ますます技術が進歩して拡大すると見ている。

しかし、蒸し、湯のしの業者の廃業は大きな痛手であり、特に蒸しについては発色に関係して良い色

が出せない状況にある。

○また、国産繭を使用した純国産ブランドの取組では、振り袖、成長の節目の晴れ着などさらなるブランドの打ち出しや、自社の若手女子社員の企画で、主に紋意匠生地を使用した色無地・小紋・夏物などのおしゃれ着を提案している。着る側の立場から「着てみたい」「扱いやすい」「求めやすい」の商品作りが好評を得ているとの声も聞かれた。

○和装小物では、着物がまともに戻ってきたことから、衿、帯揚げもスタンダードのものになってきた。衿は後加工によって新しいものを提案することができ順調である。中国からの輸入が減少したことで、国内の機場は良く動いていると思う。

しかし、高齢化や後継者がいないことから、作ることができなくなった商品もある。サプライチェーンのあり方を見直し、ものづくりのラインをしっかりと作り上げたい。

ものづくりのできる機場が必要であり、機場に対する投資もいとわない。ここに来て代替わりを求め商品もあり、新しい企画を進めたい。

また、縫い取りの衿や帯揚げもコンピュータジャカードの使用で効率的に生産できる。ディスクやドライブの信頼性が気になる。安心して生産できる環境の整備も必要だ。

## ◆西陣メーカー

○平成23年の西陣帯地推定出荷数量は、69万5,143本で、前年比19.1%の減少となっている。昨秋の10～11月は持ち直したかに見えたが、12月以降この5ヶ月間は20～30%の落ち込みであり、昨年より深刻である。

問屋売りは少なくなっており、売上げの半分以上は小売りの催事によるものであるが、集客が悪く低価格品しか売れない。特に地方での売り出しは経費倒れとなっている。

○振袖セット用の値頃品において一部堅調な動きはあるが、販売価格は引き続き下落傾向にあるためメーカーの採算を圧迫している。売れているところは柄作りができることであり、償却ができるから新柄を作ることができる。新しいものを作らないと売れない状況となっている。

○今一番の課題は機場の確保である。10年継続できる織り手さんを確保したい。織場の高齢化により、良いものが織り上がってこない。難率が高く数パーセント強にもなる。皮肉なことにこのキズ物のワケあり品が古着屋などによく売れているのも現状である。

○織場を確保するには月給制として生活を保障する必要がある。若い人が就労して、織手の技量が上がり、品質の向上が大事である。

また、分業で行われてきた糸練りや箆屋などの関連業種の減少も課題である。柄作りも同様であり、織組織を考えて紋紙作りができる人が少なくなった。絵を描く人もいなくなる。今日までの柄データを大切に柄作りをすることとなる……。

調査機関：(公財)京都産業 21 北部支援センター  
調査日：平成24年3月6, 7日